

生涯スポーツとしての剣道に関する考察

～Consideration about the kendo as a lifelong sport～

1K08B118-1 高畠 祐太

指導教諭 主査 岡 浩一朗 副査 矢野 尊之

【目的】

現在、日本人の20歳以上のスポーツ実施者の割合は、年々少しずつ上昇してきている。この結果を見ると、国民の日常生活の中にスポーツは深く浸透してきていることが伺える。その中でも、日本古来の伝統スポーツである剣道は小さい子供からお年寄りの方まで、幅広い年齢層で実施できるスポーツとして有名である。また、長年剣道から離れていた人でも、久しぶりに再開するケースが多く、剣道は様々なスポーツの中でも、特殊な特徴を持った競技であると言えるだろう。

このことから、地域の道場やスポーツクラブで剣道を行っている剣士を調査して、なぜ剣道は生涯続けていこうと思えるのか、剣道が幅広い年齢層で実施できる理由は何なのかを様々な観点から調べていき剣道が生涯スポーツである理由について解明することを本研究の目的とした。また、剣道から1年以上離れた経験のある人には別に調査をし、なぜ剣道は再開したくなるのかを調べていきたいと考えた。

【方法】

「早稲田大学体育会剣道部で週2回行われる稽古会参加者」31名と「茨城県ひたちなか市財団法人勝田若葉会で週3回行われる稽古会参加者」17名、「茨城県県下剣道大会参加者」33名、「その他地域道場に通っている剣士」2名の計83名を調査対象とした。しかし、条件として22歳以上の剣士を対象としている。調査期間は、2011年11月下旬である。調査内容としては、5つの基本項目と11の選択式項目、1つの記述式項目、剣道から離れた経験がある対象者には、それとは別に2つの選択式項目にも回答を求めた。

【結果】

本研究の結果を、各項目一番多い回答のみここに示す。基本項目は性別が「男性」で77人、年代が「20代」と「60代」で17人、職業が「会社員」で40人、婚姻状況が「既婚」で56人、剣道を始めた年齢が「6～11歳」で48人であった。選択式項目は、剣道実施頻度が「5～9日」で29人、他ス

ポーツ実施頻度が「ほぼ行っていない」で33人、剣道は生涯スポーツと思うかが「思う」で81人、剣道は健康の維持増進に繋がるかが「はい」で79人、剣道実施環境は十分であるかが「十分である」で63人、何歳まで剣道を続けたいかが「80歳以上」で25人、剣道を始めた理由が「家族や友人から勧められて」で42人、剣道が続ける理由が「剣道の面白さに引かれて」で26人、剣道の存在とは何かが「生涯続けていきたいもの」で44人であった。記述式項目では、剣道が幅広い年齢層で実施できる理由について「年齢なりの剣道があるから」という意見が一番多かった。剣道から離れた経験については「はい」と答えた人が55人、そのうち、離れた理由が「仕事が忙しかったから」で27人、再開した理由が「できる環境が整ったから」で21人であった。

【考察】

本研究の結果から、剣道が生涯スポーツである一番の理由は、剣道が体力的なものを技術面、精神面でカバーできることにあると言えるだろう。高齢になると体力は低下していくが、技術力、精神力を鍛えることで強さを維持、更には強くなることさえできる。その結果、高齢者でも若者と対等に競技ができ、技術力、精神力の強化を目指す年齢なりの剣道という目指すべき剣の道があり、剣道の面白さを永遠に味わうことができるのだ。その結果として、80歳以上まで剣道を続けたいと思っている人、剣道の面白さに引かれて剣道が続けている人、剣道を生涯スポーツだと思っている人、剣道をこれからも生涯続けていきたいと思っている人がそれぞれ多いという結果に繋がったのだと考えられる。

また、剣道が一度離れてからまた再開したくなる理由についても、幅広い年齢層で実施できるという特徴が大きく関係していると推測される。どの年代でも、剣道の面白みを味わいながら続けられる剣道だからこそ、自然とまた剣道をやってみようと思うようになるのだと考えられる。